



次世代自動車の インフラ整備進む



ハードルは5億円の設置コスト

行政の助成が不可欠

運営方法や設備の簡素化、規制のあり方など検討する問題はさまざまだが、最大のハードルは5億円程度とされる設置コスト。NEEDはこの実証をもとに技術開発や規制緩和を進め、20年頃にはコストを2億円以下にして、民間参入の促進をもくろんでいる。

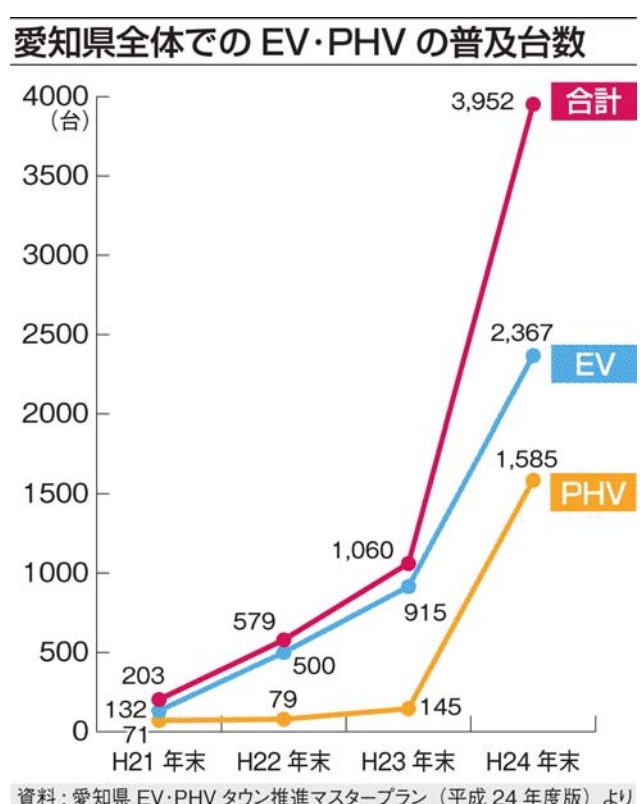
スタンドのレベルにまでは至らない。経産省はそのコスト差を縮小すべく、水素ステーションの設置に費用の2分の1を助成する制度を創設している。三重県では同制度を活用して、固定資産税を免除や、1000%を上限に用地取得を補助金として追加支援を講

「こうした取り組みで充電器の拡大が進めば、それがEV・PHVの普及を促し、さらに充電器の需要を伸ばす好循環が生まれることが期待できる。充電器については、着実に整備し、『充電器は愛知に行けば確かにある』という形にもっていききたい」（大村知事）という愛知県。県内1600基の目標達成に向けて視界は良好なようだ。

「先進的なこの環境地域で水素ステーションをいろいろ使っていたら、いろいろなデータを取り、今後の展開に資していききた

厚岸緑区の住宅街にあるガソリンスタンドに併設した水素ステーション「神の倉水素ステーション」の開所式で、古川一夫 NEDO 理事長は居並ぶ自動車、石油業界関係者と一緒にあいさつした。

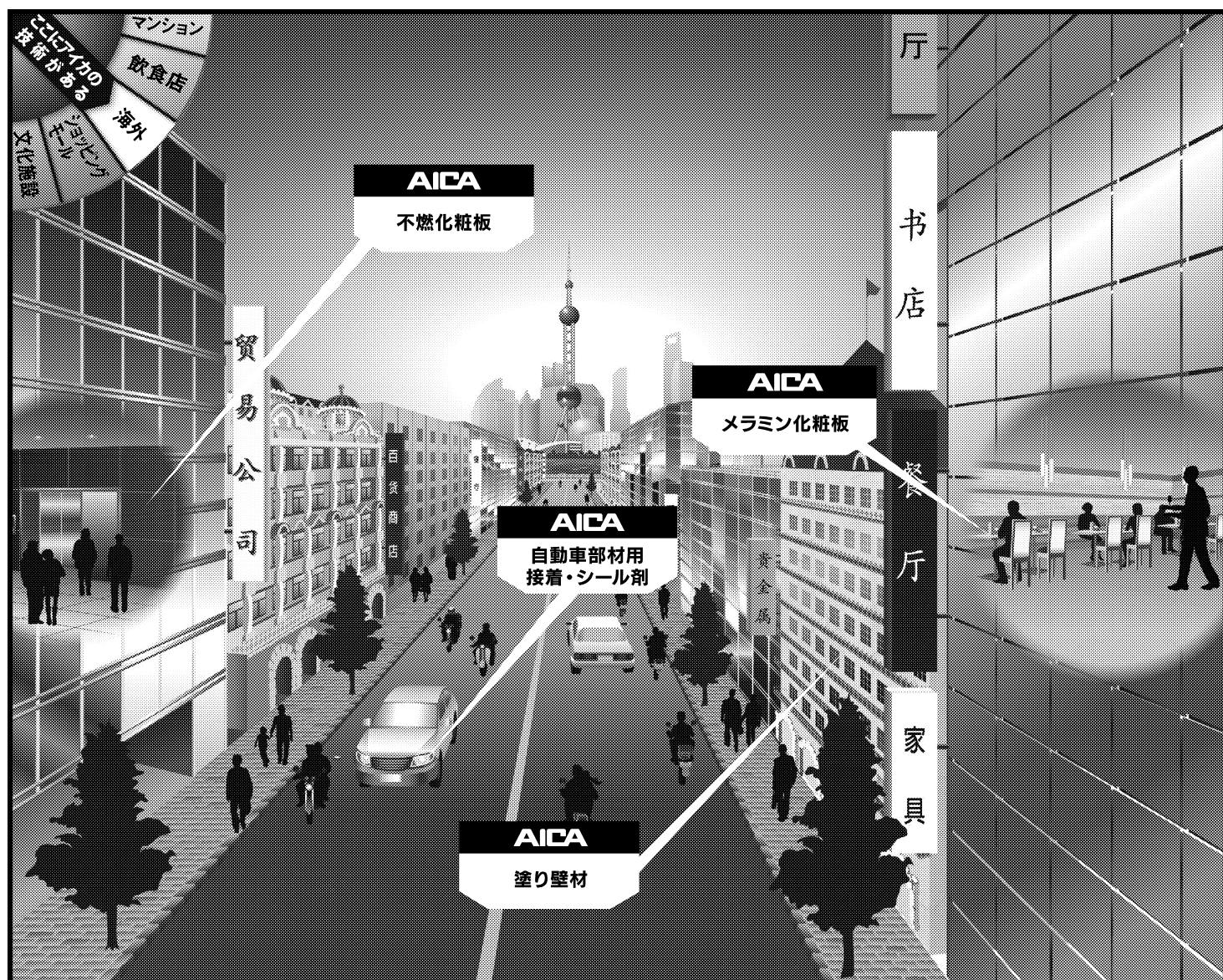
NEDO は今年、石油会社やガス会社で構成する水素供給・利用技術研究組合（HYSUT）とともに神奈川県 1 力所、愛知県 2 力所、水素ステーションを開設。15 年かから始める予定の F C V の一般販売を見据え、その利用に欠かせない水素ステーションが普及に向け



ついに、スタートラインに立った。

先にオープンした神奈川県の施設が製油所でできた水素を運んで来る「オフサイト型」なのに、神の倉と豊田市に新設した「とよたエスコフルタウン水素ステーション」は水素製造設備を持ち、液化石油ガス（ＬＰＧ）や都市ガスを原料にして、その場で水素を作り出す「オンサイト型」だ。特に神の倉は周囲に住宅が並び既設ガソリンスタンドに合わせる形で設立、産業用としては長い歴史があり、安全利用の方法が確立してはいる水素だが、一般社会では使う機会がほとんどなく、危険物との認識も根深い。それだけに、普段来ていただくお客が水素を身近に感じていただけている。その安全性を実感しているたぐいは意義がある」（古川理事長）。

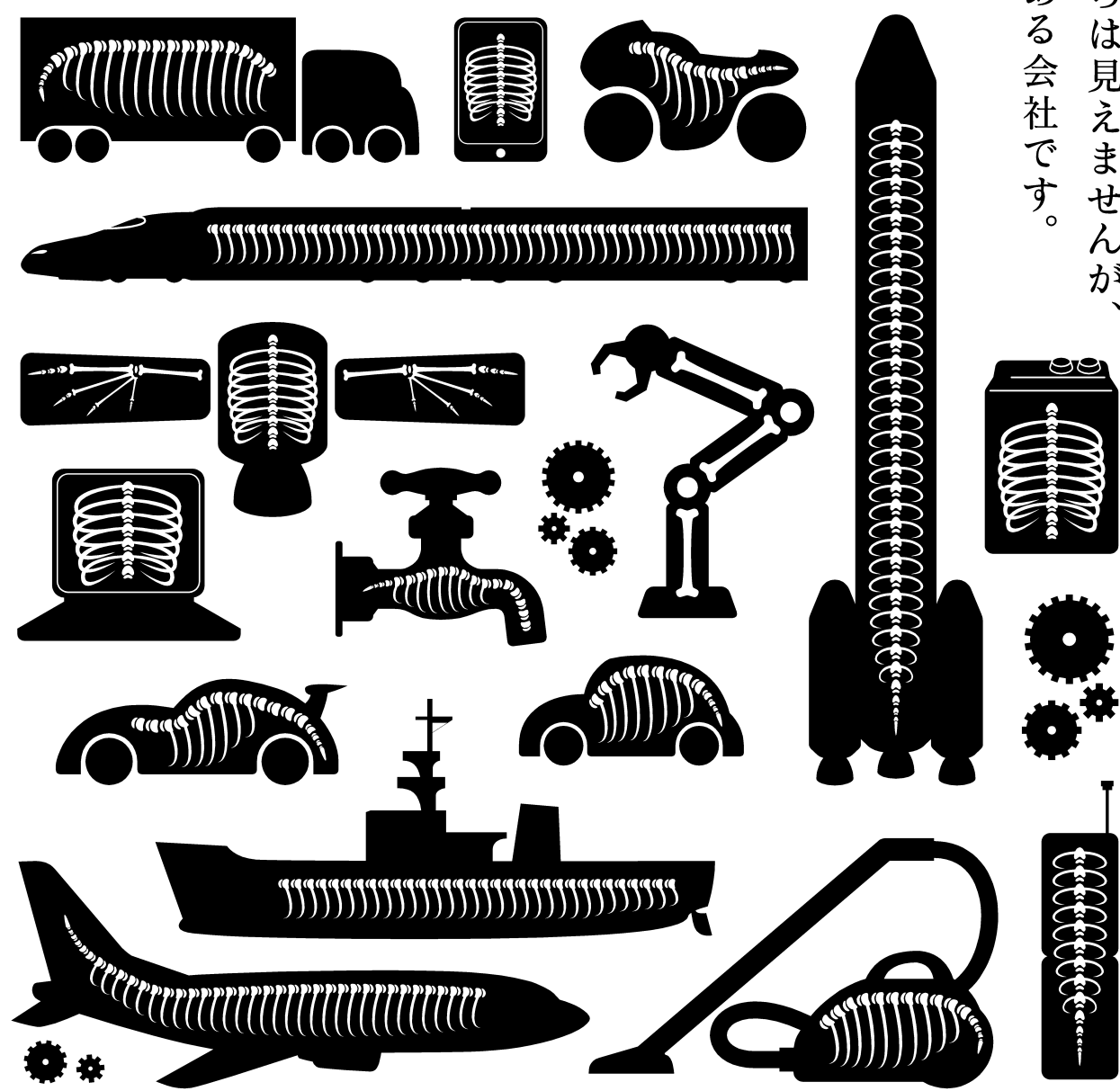
これらを活用して進める実証事業では、実際にＦＣＶへと水素を供給し、水素ステーションの商用化で、「どういった使い道があるかを洗い出し、今後の大量導入に生かす。」（同）。



暮らしを彩る、社会を支える。
世界のさまざまな国で
「アイカの技術」が活躍しています。

日本だけにとどまらず、アイカが活躍する舞台は世界へと大きく広がっています。アイカグループはアジア・太平洋圏を中心に製造・営業拠点などのネットワークをグローバルに展開。メラミン化粧板や不燃化粧板、塗り壁材をはじめとする建築材料はもちろんのこと、自動車部材用接着・シール剤などの幅広いジャンルの製品を各国で提供し、高い評価と信頼を得ています。アイカの製品が世界の街を、暮らしを彩り、そして社会を支える。世界の至るところで、アイカの技術が活きています。

AICA アイカ工業株式会社 〒452-0917 愛知県清須市西郷江2288番地 TEL (052) 409-8000 (代表)



多彩なフィールドで、フロンティアを目指しています。

大同特殊鋼の素材は、自動車や航空機等の輸送機械をはじめ、家電製品や情報機器、産業機械など、暮らしや産業を支える多彩な製品や部品に使われています。私たちの使命は、素材の力で新たな価値創造に貢献すること。これからも独創の技術で、さらなるフロンティアを目指します。